



物流 事情

JETRO



ガーナ

BOP層実態調査レポート

概要

ガーナの輸送部門は主として道路輸送、海上/水上輸送、航空および鉄道輸送からなる。主要手段は道路輸送で、現在、貨物の約98%、旅客の約95%を占めている。道路の運営管理は、運輸省下のガーナ道路公社 (Ghana Highway Authority)、支線道路局 (Department of Feeder Roads) および都市道路局 (Department of Urban Roads) が行っている。

道路輸送は、都市、都市と地方間、地方、高速サービスに分かれる。都市の旅客輸送需要は、主に住民の通勤、通学、その他の経済・社会・娯楽活動である。都市の輸送のほとんどはバス/ミニバス、タクシーなどによるが、その中でもバスが約60%を占め、タクシーは約15%で残りが自家用車である。

バスによる公共輸送の事業者は23あり、14~54席の車両で、市内、都市間、長距離のサービスが提供されている。アクラ市内の至る所に停留所があるトロトロと呼ばれるバスが一般的である。

高速道路は、東西はトーゴ国境からコートジボワール国境まで、南北はアクラからクマシ、ケープ・コーストからクマシまで伸びている。タコラディ、アクラ、クマシの地域においては比較的舗装状態は良い。アクラはほとんどの道路は舗装されており、舗装の程度は比較的良く、アスファルトがはがれている所は少ない。しかし、脇道では未舗装の道が多い。最近では、車の増加に伴い渋滞が慢性化している。

コンテナ海上輸送は、2001年以降増加している。2008年から2010年までのコンテナ輸送量(輸出入)は、302,748TEUから643,189TEUへと増加がみられた。

2010年のガーナへの来航船舶数は3,064隻であった。来航船舶数は年々増加し、2003年と2007年には一時減少したものの、2008年から2009年には1,568隻から1,631隻へと再び増加している。2000年から2006年の間に Tema 港に来航した船舶数は全体の70~77%に上る。



トロトロ乗り場



ガーナの国旗に配色された鉄道



航空輸送はアクラのコトカ国際空港が使われる。国際旅客数は、2004年の71万人から2009年には120万人へと増加した。旅客数は2007年から2009年にかけて毎年増加しており、2009年はヨーロッパへの出入国が全体の38%を占め、22%が西アフリカ地域の出入国であった。2010年には139万人まで増加し、ヨーロッパへの出入国は全体の33.5%、西アフリカ地域は27.7%となった。国内線は、Antrak、Citylink等が運行している。

鉄道は、アクラ～クマシ～タコラディの3都市を結んでいるが、本数は少なく時間がかかる。



出張者が見たガーナ

黄色いナンバープレートの自動車は、タクシーかトロトロという乗り合いバスである。昔トロという通貨があり、トロ一つで乗り合いバスに乗れたので、トロトロと呼ばれるようになったという。主な交通手段は、トロトロ、オートバイ、自転車、タクシー、自家用車、歩きなどである。鉄道もあるがあまり発達しておらず、主に道路が使われている。



タクシー



ブルキナファソの税関支署看板(テマ港)



テマ港で沖待ちをする船

テマはアクラの東方にあるガーナ最大の港である。漁港も併設されている。西アフリカ内陸国にとってのハブ港の一つでもある。コンテナ会社のMaersk Line、Delmas、Evergreen、商船三井や日本郵船、川崎汽船などが入っている。ニジェール、ブルキナファソ、マリからの貨物が入るターミナルもあり、ニジェール、ブルキナファソ、マリの税関支署が設けられている。

近年テマ港からアクラへの鉄道が復活し、アクラからクマシ、クマシから国境までの鉄道路線整備が進められている。物流は、陸路が主となっている。陸路の場合、重量制限はあるが他の規制は特段ない。

冷凍物は保冷車がないので、国内では段ボール箱のまま運ばれている。国内陸路を10時間程度運んでも、到着時に少し温度が上がる程度で済む。陸路で国境を越えるには1日程度かかる。スーパーのような小売店がコールド・ストアという大きな冷凍庫に物を保存するサービスを提供するビジネスもある。



コンテナから荷を降ろす様子